

Orgelrezital
Masako Hatakenaka-Kiyose
an den Orgeln der katholischen und reformierten
Kirche Langnau am Albis/ZH



Bach 🌿 Bruhns 🌿 Boëllmann 🌿 Mendelssohn 🌿 Reger

LMCD-1947

Originally released in 1982 by Jecklin & Co., Switzerland.
Tonmeister *Walther Alfred Wettler*
Digital Remastering *Yukio Kojima*
Cover Design *Natsue Yamanaka*
Booklet Editing *Izumi Sugimura*

清瀬雅子 オルガンリサイタル

Orgelrezital Masako Hatakenaka-Kiyose

J. S. バッハ: *Johann Sebastian Bach*

- ① **K** フーガ 変ホ長調《聖アン》BWV552-2~《クラヴィーア練習曲集第3巻》より 6'58"
Fuge «St. Anna» Es-Dur aus der Clavierübung dritter Teil, BWV552-2

J. S. バッハ: *Johann Sebastian Bach*

- ② **K** コラール前奏曲《我 神より離れじ》BWV658 4'49"
Choralvorspiel «Von Gott will ich nicht lassen», BWV658

N. ブルーンズ: *Nikolaus Bruhns*

- ③ **K** 前奏曲 ホ短調(大) 8'15"
Präludium e-Moll (groß)

L. ボエルマン: *Léon Boëllmann*

- ④ **R** 聖母マリアの祈り ~《ゴシック組曲》より第3番 4'44"
Prière à Notre Dame aus der Suite gothique Nr. 3

F. メンデルスゾーン: *Felix Mendelssohn Bartholdy*

- ⑤ **R** コラール変奏曲《天にましますわれらの父よ》~ソナタ第6番 二短調 作品65-6より 10'02"
Choralvariationen «Vater unser im Himmelreich» aus der Sonate VI, op. 65 Nr. 6 d-Moll

M. レーガー: *Max Reger*

- ⑥ **K** コラール《暁の星はいと麗しきかな》による幻想曲 作品40-1 15'56"
Phantasie über den Choral «Wie schön leucht' uns der Morgenstern» op. 40 Nr. 1

total playing time : 51'17"

K ラングナウ カトリック教会 マティス・オルガン
Fa. Mathis (Katholische Kirche Langnau a. A. - Marienkirche)

R ラングナウ 改革教会 ミューライゼン・オルガン
Fa. Muhleisen (Reformierte Kirche Langnau a. A.)

Biography



清瀬雅子(オルガン)

武蔵野音楽大学オルガン科卒業(福井直秋奨学金生)。ウィーン国立音楽大学コンサートオルガン科卒業。オーストリア国より「研究援助金」を受ける。ウィーンでは教会音楽科に籍を置き、グレゴリア聖歌学、賛美歌学、礼拝学などを学ぶ。オルガンを秋元道雄、M.ラドゥレスク各教授に師事。合唱指揮をウィーン少年合唱団総指揮者 H.ギレスベルガー教授に師事。卒業後もA.ハイラー教授のレッスンを受ける。その他、G.リテーズ、F.タリアヴィーニ教授等の講習会に参加。1972年ウィーン国立音楽大学から派遣され、イーグルス・オルガン週間でヨーロッパデビューをする。スイス・ドイツ語圏で外国人として初めてオルガニストのヴィザを受け、教会庁、ラングナウ改革教会(国教会)のオルガニストを務め、チューリッヒ・グロースミュンスター等で演奏した。イギリスではロンドン市セント・ステイーヴン、ウエストミンスター(国教会)のオルガニストを務め、当時10年に一度ずつ開かれていた「世界オルガン会議」(1987年 英国ケンブリッジ)では、レイディー(称号)スーシー・ジーンズにより、邸でのプレ・オープニングの奏者に選ばれ、演奏は各国の人々に賞賛された。2000年にデンマークにおける「J. S. バッハ没後250年記念コンサート」に出演、また2002年にはスコットランドのH.ウィリス作ロマンティックオルガンを演奏し、好評を得る。新設されたオルガン披露コンサートを含め、2005年夏、ドイツとスイスにて演奏。南ドイツ新聞にコンサート紹介記事が掲載され、ターゲス・アンツァイガー紙、チューリッヒ・ゼー新聞にて高い評価を受けた。その他、オーストリア、ポーランド、イギリス、日本等に国々の歴史的オルガンから現代オルガンによる多くの演奏を重ねる。スイス・エックリン社よりレコードが発売される。日本基督教団渋谷教会オルガニスト、明治学院礼拝堂オルガニスト、日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会、日本賛美歌学会各会員。

Die Dispositionen der beiden Orgeln

●ラングナウ カトリック教会 マティス・オルガン

**Katholische Kirche Langnau a. A. -
Marienkirche**
Fa. Mathis, Näfels, 1972

Hauptwerk:

Pommer 16'
Trompete 8'
Prinzipal 8'
Koppelflöte 8'
Oktave 4'
Salicional 8'
Hohlflöte 4'
Oktave 2'
Mixture 1 1/3'
Sesquialter 2 2/3' - 1 3/5'

Rückpositiv:

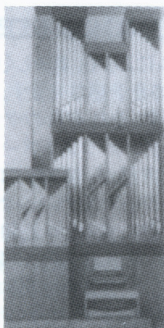
Holzregal 8'
Holzgedackt 8'
Rohrflöte 4'
Prinzipal 4'
Terz 1 3/5'
Flöte 2'
Quint 1 1/3'
Scharf 1'

Pedal:

Subbass 16'
Prästant 8'
Fagott 16'
Zinke 8'
Oktave 4'
Nachthorn 2'

mechanische Traktur und Registratur;

Koppeln: HW/P
HW/P
RP/P
RP/HW



●ラングナウ 改革教会 ミューライゼン・オルガン

Reformierte Kirche Langnau a. A.
Fa. Muhleisen, Strassburg, 1972/73

1. Manual:

Montre 8'
Cor de Chamois 8'
Prestant 4'
Flûte à cheminée 4'
Flûte 2'
Nazard 2 2/3'
Tierce 1 3/5'
Fourniture 1 1/2' 3 rangs
Tremblant

2. Manual: (Schwellwerk)

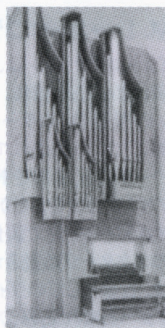
Flûte à cheminée 8'
Salicional 8'
Flûte douce 4'
Doublette 2'
Larigot 1 1/2'
Cymbale 1/2' 3 rangs
Hautbois 8'
Tremblant doux

Pedal:

Soubasse 16'
Flûte 8'
Flûte 4'
Trompette 8'

mechanische Traktur und Registratur;

Koppeln: I/P
II/P
III
II/P4



Program Notes

J. S. バッハ: フーガ 変ホ長調《聖アン》BWV552-2

～《クラヴィーア練習曲集第3巻》より

J. S. バッハ自身によって名付けられた「クラヴィーア練習曲集」第3巻の終曲です。英語圏では聖アンSt. Annenのフーガと呼ばれています。曲集冒頭の前奏曲と同じく、フーガは3部から成り立っています。キリスト教の三位一体の神(父、子、聖霊)を意味する、トリニティーフーガと呼ばれています。4/2拍子の荘厳な上方指向の第1テーマは、第1部で5声のフーガとして作曲されています。第2部のテーマは波と水の動きのある生き生きとした羽根車のようなテーマです。波と水は昔から「生命」の象徴と言われています。4声で書かれている提示部のすぐ後には、第1テーマが6/4拍子でリズムカルに現れます。第3部のテーマは勝利の喜びに満ちています。そしてテーマは5声で12/8拍子で再登場します。ここでは第1のテーマはベダルBaldernに現れ、第2のテーマは多少変えられ羽根車の動きの間奏となります。この三位一体のフーガは三重フーガと言えるかもしれません。この点について、学者の意見は統一されていません。しかし、このフーガが、『フーガという形式が何百年も発展している中で』の頂点である』(V. ルーカス)であることには違いありません。

J. S. バッハ: コラール前奏曲《我 神より離れじ》BWV658

バッハが晩年に推敲し編集したコラール集に収められています。彼が晩年を過ごしたライプツィヒ市にちなみライプツィヒコラールと呼ばれます。しかし、これらの前奏曲のほとんどはヴァイマルやケーテン時代にすでに作曲が始められています。オルガン小曲集の曲とは異なり、何度も再考し推敲されました。バッハの諸先輩、パッヘルベル、ブクステフーデ、ベーム等の作曲形式を継承し、かつ、完成度を高めたまさに巨匠的作品です。「我 神より離れじ」のカントゥス・フィルムス(定旋律)は、ベダルで奏されるテノールに置かれ、ヘ調上のドーリア調として現れます。自由に動く3つの声部が定旋律を取り巻き、そのメロディーの模倣形が導入部に使われています。リズムカルでメロディックな特徴ある進行はバッハがよく使う喜びのリズムや動機です。上声部が変口短調からヘ長調へ転調しており、低声部が静かにオクターヴの進行で伴奏をしている間、コラールの最後の音は停滞し続け、いわゆるオルゲルプンクトとなります。

N. ブルーンズ：前奏曲 ホ短調(大)

ブルーンズの作として残されている曲は、タブラチュア譜(文字や数字や記号などで表す器楽の為の記譜法)で書かれているものが数曲あるのみです。彼は、北海に面した北ドイツの町フーズムにおける著名なオルガニストであり、またヴァイオリニストとしても巨匠でした。彼の前奏曲とフーガは、本格的北ドイツ様式ですので、D. ブクステフーデの弟子に違いありません。この曲は元来、多部分からなるトッカータです。魅力的な変化のある短い分散和音は、レチタティーヴォ的ゆるやかな動きの間奏を伴ってオルガンポイント(低音保持音)の上にあります。その分散和音の動きは4声になり、フーガへと導きます。第1フーガにおいて、2分音符進行する下行テーマは8分音符で書かれた元気あふれる対主題と気どって散らばった16分音型によって模倣されます。優雅なハーブに似せた音型と瞑想的なグラウヴェは、切迫したようなプレストへ移り、第2フーガのアダージョの導入部へと続きます。頑固でシンコペーションの形を持つテーマは、間奏を伴わない提示部へと戻ってきます。濃縮された活発な、同型反復となります。それは、ホ長調から、若干の段階を経て、ホ短調へ戻り、第1テーマをほのかに思い出させた後、エネルギッシュなコーダへ合流します。

L. ボエルマン：聖母マリアの祈り ～《ゴシック組曲》より第3番

「大オルガンのためのゴシック組曲」は、コラル、メヌエット、聖母の祈り、トッカータで構成されています。このアルザス地方の後期ロマン派の曲は、ノスタルジックな過去の忘れ去られた形式を思い起させます。同じアルザス地方のミュライゼン・オルガンは、どちらかと言うと小さな楽器で、大オルガンではありませんが、「祈り」を弾きあらわすには丁度よく、スウェル鍵盤、トレモロ、そして柔らかな整音で、情緒豊かな言い回しができます。この曲は変イ長調であり、「非常にゆっくり」と始められますが、変ニ長調の「アニマート」と書かれている間奏へと高められ、変ヘ長調、ハ長調を経て始まりの変イ長調へ戻ります。

F. メンデルスゾーン：コラル変奏曲《天にましますわれらの父よ》

～ソナタ第6番 二短調 作品65-6より

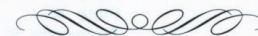
コラル変奏曲「天にましますわれらの父よ」は、4つのヴァリエーションへの始まりとして5声で弾かれ、色どり豊かなハーモニーがつけられています。最初のヴァリエーション、アンダンテ・ソステヌートは穏やかなバスを伴い、優しいレガートのソプラノへと移行します。第2のヴァリエーションでは、カントゥス・フィルムスが4声の和音で、3連符のはっきりしたバスの上に響きます。第3のヴァリエーションでは、

テノールにコラルが現われ、3度と6度の上声部と軽やかな8分音符のバスによって伴奏されます。フォルティッシモのアレグロにおいては、カントゥス・フィルムスを受け持っているベダルバスが、荒々しいアルペジオによって伴奏され、その後、カントゥス・フィルムスはアルペジオの最高音に移行します。総休止の後、コラルは詩の一行目に戻り5声で奏でられます。続けて装飾された経過音を伴った最終行が弾かれ曲は終わります。

M. レーガー：コラル《暁の星はいと麗しきかな》による幻想曲 作品40-1

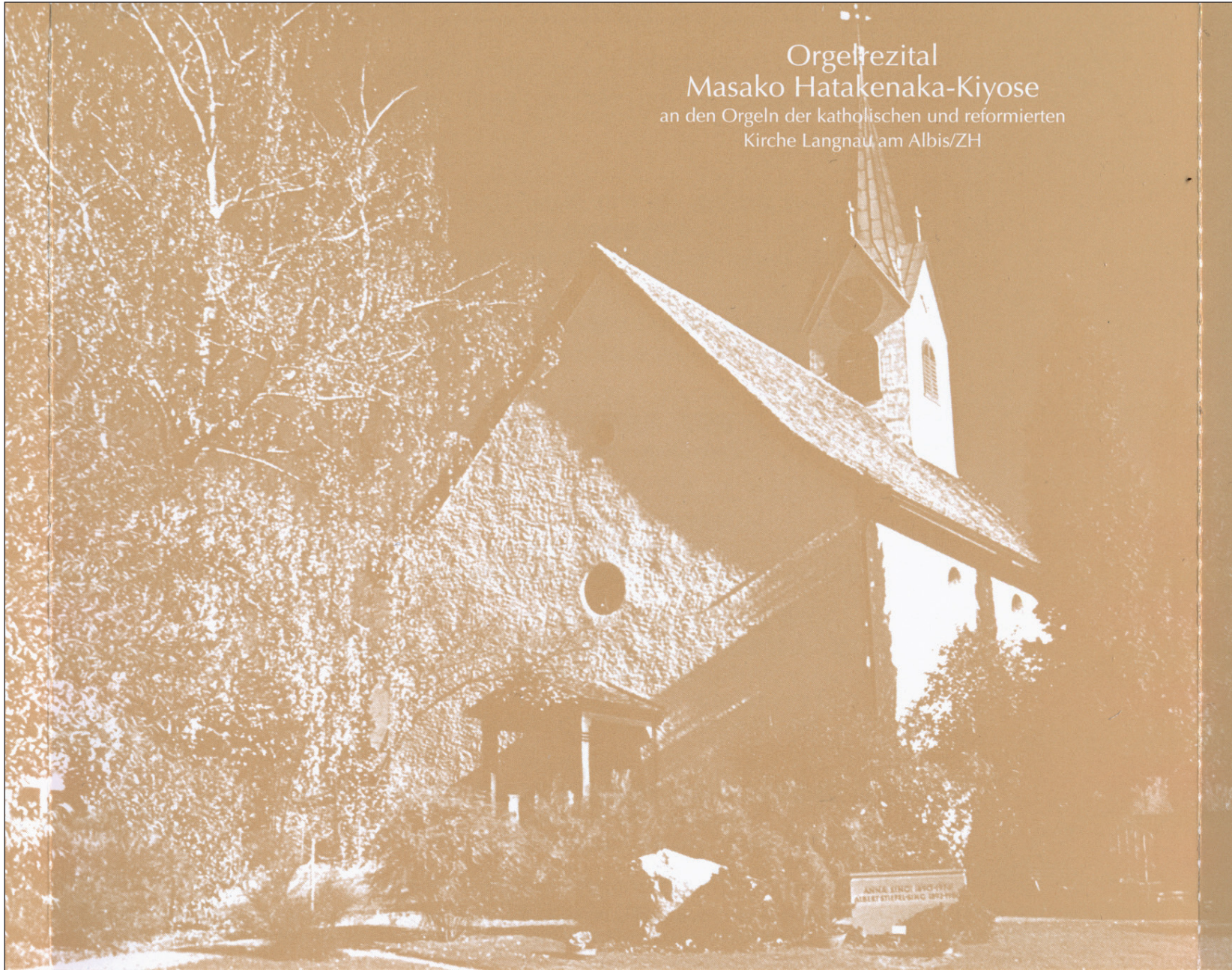
イントロダクションは、力強い和音の連続と二重ベダルによって、重々しく始まります。短い愛らしい間奏によって途切れ、それは次に来るコラルの詩的さを予感させます。このコラルヴァリエーションの楽想は、コラルのテキストと強く関係しています。それぞれのヴァリエーションは、歌詞の一節ごとに作曲されています。最初の二つの節、アンダンテ・ソステヌートとビュー・アンダンテは、テノールに定旋律を持ちます。第1節では穏やかな上声部が、第2節では三連符で弾かれるバスとアルトが生き生きとからみあっています。第3節、アダージョ・エスプレッショネにおいては、ソプラノがメロディーを奏で装飾されています。第4節では、上声部に荒々しい走句を伴いながら、大きなベダルのオクターヴの動きが、カントゥス・フィルムスを奏でます。それは、優しい楽想へと引き継がれ、ついには、賛歌としてのヴィヴァーチェ・アッサイになります。そして、3連符の動きを伴いながら、静かなアダージョへと流れ込み、アレグロ・ヴィヴァーチェのフーガへと続きます。気まぐれで饒舌なテーマは4声になり、それに続く部分ではごつごつした和声進行の中にもテーマははっきりと現れます。そしてそれは、最後のコラル節がバスで奏でられるまで続きます。フーガは、今や和声上声部がコラルとなり、そして素晴らしいアダージョの終曲部へと到達していきます。このコラルファンタジーは、ラングナウ・カトリック教会のマティス・オルガンでの演奏に適している作品ではありませんが、深い感動と熱情を持って鳴り響きました。

H.F. (訳:清瀬雅子)



このCDは1982年秋に、スイスのイエックリン社より発売されたレコードの録音を元に制作されたものです。録音のトーンマイスターはW. A. ヴェットラー氏で、ドイツグラモフォン社でカール・リヒターのハッハオルガン全集を録音した技術者です。氏はグラモフォン社を定年退職後、故郷スイスのイエックリン社で仕事をしていました。曲の説明文は、H. F. 氏によるドイツ語文を日本語訳したものです。レコードジャケット、演奏者の略歴、写真も更新されました。

Orgelrezital
Masako Hatakenaka-Kiyose
an den Orgeln der katholischen und reformierten
Kirche Langnau am Albis/ZH



Orgelrezital Masako Hatakenaka-Kiyose
清瀬雅子 ✿ オルガンリサイタル

J. S. バッハ : *Johann Sebastian Bach*

① フーガ 変ホ長調 《聖アン》 BWV552-2 [6' 58"]

～《クラヴィーア練習曲集第3巻》より

Fuge «St. Anna» Es-Dur aus der Clavierübung dritter Teil, BWV552-2

J. S. バッハ : *Johann Sebastian Bach*

② コラール前奏曲 《我 神より離れじ》 BWV658 [4' 49"]

Choralvorspiel «Von Gott will ich nicht lassen», BWV658

N. ブルーンズ : *Nikolaus Bruhns*

③ 前奏曲 ホ短調(大) [8' 15"]

Präludium e-Moll (groß)

L. ボエルマン : *Léon Boëllmann*

④ 聖母マリアの祈り [4' 44"]

～《ゴシック組曲》より第3番

Prière à Notre Dame aus der Suite gothique Nr. 3

F. メンデルスゾーン : *Felix Mendelssohn Bartholdy*

⑤ コラール変奏曲 《天にましますわれらの父よ》 [10' 02"]

～ソナタ第6番 二短調 作品65-6より

Choralvariationen «Vater unser im Himmelreich»
aus der Sonate VI, op. 65 Nr. 6 d-Moll

M.レーガー : *Max Reger*

⑥ コラール 《暁の星はいと麗しきかな》による幻想曲 作品40-1 [15' 56"]

Phantasie über den Choral

«Wie schön leucht' uns der Morgenstern» op. 40 Nr. 1

total playing time : 51' 17"

©1982 Jecklin & Co. ©2011 Masako Kiyose. Manufactured & Distributed by Kojima Recordings, Inc. Made in Japan
権利者の許諾なく貸貸業に使用することを禁じます。また無断でテープその他に録音すること、ネットワークを通じてこのCDに収録された音を送信できる状態にすることは法律で禁じられています。

COMPACT
disc
DIGITAL AUDIO

清瀬雅子 オルガンリサイタル — 清瀬雅子(オルガン)

スイス・ドイツ語圏で外国人として初めてオルガニストのヴェイザを受けたオルガニストが
1980年代に収録した貴重な音源を、スイスイエックリン社の原盤より復刻CD化！

清瀬雅子 オルガンリサイタル



ウィーン国立音楽大学を卒業し、ヨーロッパ各地で幅広い演奏活動を行ってきたオルガニスト清瀬雅子。チューリヒ近郊ラングナウ・アム・アルビスのカトリック教会と改革教会の2台のオルガンの重厚なサウンドは、パイプオルガンの醍醐味を十分に味わわせてくれる。



販売: コジマ録音

LMCD-1947

税込価格 2,310円
(税抜価格 2,200円)

LMCD-1947